

広げよう つなげよう 地域助け合い

活動の現場から

オールドニュータウンの課題に みんなのNPOで取り組み

NPO法人コミュニティかりば (兵庫県)

高度成長期に大量供給された全国のニュータウンでは住民の高齢化が急速に進み、まち全体が老いていく「オールドニュータウン化現象」が問題になっています。そんな中、地域で活動する各種団体の中心メンバーが横断的につながって新たにNPO法人を設立し、地域課題に取り組んでいる「コミュニティかりば」。その活動を紹介します。

(取材・文：城石 真紀子)

団体間の垣根を超えてコラボ

神戸の中心地・三宮から地下鉄で約30分。西神中央駅を最寄り駅とする、

神戸市西区の西神ニュータウン。その一角に位置する狩場台・籠台地区は、1982年4月の入居開始から37年が経過。団塊の世代を中心とした子育て世代がいつとときに住宅を求めたことか

ら急激な高齢化が進んでおり、2012年2月には22・8%だった高齢化率(65歳以上)は、18年3月には38・5%にまで上昇。25年には50%を超えることが予想されている。

こうした現状の中、若年層はまちを離れて人口も減少。購買力の低下によって、近隣センター「かりばプラザ」では空き店舗が目立ち始めるなどの問題も生じていた。そこで2010年、テナント会や地域住民団体などによるゆるやかな連携の会「元氣アップかりば」が発足。地域住民が集まれる季節のイベントを催してにぎわいを取り戻そうとの活動を始めた。一方、狩場台ふれあいのまちづくり協議会(略称・ふれまち協議会)では地域の実情に合った福祉の創出として、身近なお困り

ごとを支援し、高齢者などの生活サポートをする「地域の支えあいの仕組みづくり」事業を2012年度、13年度に試験実施。このような地域づくりの取り組みを安定的に継続し、さらに発展させることを目的として14年3月に設立されたのが、NPO法人「コミュニティかりば」(略称・NPOかりば)である。

「発足にあたっては、狩場台地域の婦人会、アラウンド還暦クラブ、民生児童委員協議会、小学校施設開放運営委員会などの中心的メンバー16名が団体間の垣根を超えて参画しました。法人の設立によって、かりばプラザの空き店舗における訪問者のための休憩スペースの運営および集会所の受付業務をオーナー企業から受託して業務を開始。同時に、ふれまち協議会で行われていた支えあい事業を引き継いだ。お困りごとサポート事業を自主事業としてスタートし、地域のお困りごとに幅広く有償ボランティアで対応できる体制を整いました」と話すのは、ふれまち協議会委員長、婦人会会長も兼務する理事長の安藤眞佐子さん。

アラ還男性が活動の担い手に

お困りごとサポート事業の前身とな

った、ふれまち協議会での支えあい事業は、そもそもどのようにして始まったのか。当初からその活動に取り組んできた、専務理事の佐野正明さんに経緯を聞いた。

「きっかけは、身近なことができないう高齢者が多くなってきた。という、民生委員さんからの訴えでした。脚立で剪定作業中に落ちて剪定バサミでけがをした、家の中で電球を取り換えようとしたら踏み台から落ちて骨折した、膝が痛くて草取りができない、重い荷物が運べない等々。これは何とかせないかんと、西区役所の助成金を活用して試験事業を実施したところ、初年度は40件、次年度は60件の利用者があり、地域で必要に迫られているサービスであることが分かりました。しかし、諸事情からふれまち協議会でこの事業を継続的に実施するのは難しく、それでNPOかりばが設立と同時に引き継ぐ



「コミュニティかりば」のプラザ内を撮影



ことにしたのです」

活動の担い手となるサポーターの中心メンバーは、佐野さんが代表を務めるアラウンド選層クラブ（会員30名）の60代の男性だ。

「正式名称はちょっと長いんですが、狩場台アラウンド選層・ちよいとボランティアの会」といいます。もともと、かりばブラザーズ、という地域のソフトボールチームがあり、30代後半からずっと一緒に遊んできた仲間がいるんですね。そのメンバーが定年退



専務理事の佐野さん（左）と理事長の安藤さんとともに団塊世代

職を迎える年代となり、遊んでばかりいてもいから、これから

2011年にふれまち協議会で実施した防災活動の一環として、家具の固定のお手伝いをさせてもらったのがその最初です。地域になじみのない男たちだけでは活動しにくいものですが、婦人会など長年地域で活躍しているメンバーへの住民の信頼は厚く、おかげで地域デビューもうまくいきました」

地域の必需サービスとして定着した生活サポート支援

アラウンド選層クラブは、いわば実働部隊。車に例えるならば、これまで地域づくりに貢献してきた各種団体にエンジンが加わったことで、スムーズな運営ができるようになったのがNP O かりばの強みだ。

「この地域には、2000年に婦人会を中心としたメンバーで立ち上げた輝（かがやき）かりば」というNP O 法人があり、家事援助などの助け合

い事業を行っています。これに、男性メンバーを中心としたお困りごとサポートが加わったことで、生活支援の幅がグンと広がりました」（安藤さん）

主なサービス内容としては、①電球

の交換、②庭の掃除・草取り・剪定、

③重い荷物の持ち運び・家具の移動、

④ごみ出し・ごみステーションの掃除、

⑤扇風機・ストーブの入れ替え、すだ

れの取り外し、⑥買い物品のお届けな

ど。利用料金は初期料金が15分300

円で、以降15分単位で料金が加算され、

1時間では1000円。このうち2割

が事務手数料として差し引かれ、残る

8割がサポーターに謝礼として支払わ

れる仕組みとなっている。

「依頼内容で多いのは、圧倒的に庭の

掃除・草取り・剪定です。腰が痛いな

どの理由で、真っ先に手がかけられな

くなるのが庭回りですからね。最近は

空き家も増えていて、高齢になって親

お困りごとをサポートします！

家事はお気軽にご相談ください

- ① 電球の交換
- ② 庭の掃除・草取り・剪定
- ③ 重い荷物の持ち運び・家具の移動
- ④ ごみ出し・ゴミステーションの掃除
- ⑤ すだれの付け外し
- ⑥ お買い物品お届け
- ⑦ パソコンお助け
- ⑧ その他お困りごと

ご利用料金（平成30年1月1日より）
1,000円/15分 500円/30分 750円/45分 1,000円/60分
※ 90分以上は15分単位（250円）とします。

080-4646-2552

フリマボックス 心と色めく宝庫

フリマボックスに手作り品・既製品など素敵なものがたくさん、それぞれ小さな店ですが出店者の心のこもった「宝庫」です。プレゼントなどにもご利用下さい。お持ち帰りです。

1店舗あたり15円 送料手数料 配達料100円

かりばブラザー周辺の住民に配布している、冷蔵庫にも貼っておけるA5サイズのちらし

18年度は今年の1月末現在です。すでに131件。リピーターも多く、高齢者だけでなく若い家族からも依頼があるなど、地域の必需サービスとして定着しつつある。

「居場所を運営する上では、みんなが立ち寄りやすい場所であることが重要ですが、フリマボックスはその有効なツールとなっています。出店するの地域の人たちならば、買いに来るのも地域の人たち。出店者が販売品の確認に立ち寄って買いに来たお客さんと話をしたり、手作り品などが売れば生きがいにもつながります。ボックス数は35あって月に400〜500点が売れ、その売り上げは15〜20万円。ボックス管理料として1ボックス月500円と売り上げの1割を手数料としていただいているので、それで光熱費などの経費も十分賄えています」（安藤さん）

また介護予防を目的として、ブラザー広場で毎週開催している健康太極拳や健康ストレッチには毎回60名ほどが参加。終了後はコミュニティかりばで、

空き店舗の多角的利用で居場所や交流の場づくりを創出

NPO かりばでは、こうした生活サポートの支援事業に加え、かりばブラザー内の空き店舗を「コミュニティかりば」として運営。テナントと連携した地域イベントの開催、フリマボックスの設置やセルフ喫茶などを通して、地

は施設に入り、子どもたちは東京にいるんだけど、実家の庭が草ぼうぼうになってるので何とかならないかといった相談もあります。こうしたケースでは、パソコンメールを使った遠隔受注で対応しています」（佐野さん）

利用件数は年々伸びており、事業を開始した2014年度は75件だったのが、17年度に初めて1000件を超え、



かりばプラザ広場を使って各種行事を開催（上・七夕ビアガーデン、下・健康太極拳）



交流ツールとして役立っているフリマボックスとセルフ喫茶

1杯100円の「セルフ喫茶」でおしゃべりに花を咲かせるグループも。「コミュニティかりばへの訪問者は月平均1000人となり、季節の各種イベントも定着。ファミリーで参加する人たちも多く毎回500〜1000人が集まり、かりばプラザは、ショッピングセンターから地域の人たちが交流し、つながる。コミュニティセンターに変わりつつあります」（安藤さん）

地域に必要とされることを1つ1つ実現していきたい

オールドニュータウン化による諸問題の解決には、このように地域の人的資源を生かし、コミュニティという大切な地域資源を育て、行政の支援も受けながら、地域の実情に合わせた仕組みをつくることも、若年世帯にも移り住んでもらえるような魅力ある地域

づくりを進めることが肝要だ。「最近では、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）とも連携ができ、お困りごとサポートの訪問先で問題を抱えているケースに遭遇したときや、コミュニティかりばにもとき相談事が持ち込まれるので、その解決を図るためにセンターの相談窓口につなぐなど、地域包括の一端を担う役割も果たせるようになりました。とはいえ、年を取っても安心して住み続けられるまちにしたい」というミッションの達成には、まだまだ継続的に運営できる資金も足りません。今はますます、生活支援に対するニーズも増えてくるでしょう。とりわけ喫緊の課題として取り組みたいのは、空き家対策です。空き家の場合はそれなりの管理が必要です。お困りごとサポート事業では現在は外周りしかやっていませんが、2か月に1回くらいは窓

を開けて空気を入れ替えをしたり、どこか傷んでいたらチェックして早め手を打つなどの管理もできればと考えています」（佐野さん）

日常活動の中でノウハウを磨きながら、地域の中で必要とされるさらなる事業展開を模索。「地域の人とふれあい、同じ思いの仲間と一緒に活動できるのが何より楽しい」という安藤さんは、「生きがいを持っていつまでも元気に活動していきたい」と笑顔で語り、神戸市の職員として西神ニュータウンの造成にも携わってきた佐野さんは、「ハードだけじゃなくソフトがないとオールドニュータウン化対策はできない。そういう意味でも地域限定でコミュニティビジネスをやるようなNPOが各地にできていくということが非常に大事になっていくのかなと。その典型的な事例になれたらいい」と話し、さらにこう続けた。

「もう一つは、こうした地域活動に参加することによって、生涯現役に役に立つことができそうです。それによって、ボケずに体力も保って介護予防になるし、自分がへたってきたら今度は助けてもらえらるので老後対策としても有効です。まだまだ必要に迫られてやることとがいろいろあると思うので、元氣なうちに頑張っただめていきたいですね」

パソコンスキルにたけた人や剪定技術を持った人など、新たなメンバーも加わり、熱意にあふれたパワフルなお二人を中心に地域づくりを進める、NPOかりばの今後の展開がますます楽しみです。

安心して住み続けられる地域づくりに寄与することを目的として、かりばプラザ内の事務所兼店舗を拠点として、コミュニティビジネス手法で地域課題に取り組んでいるNPO法人。事業内容には受託事業と自主事業があり、かりばプラザの活性化を目的とした主な受託事業には①「元氣アップかりば」イベント事務局、②集会所（会館）申込受付・料金収納、③かりばプラザ休憩所の運営がある。コミュニティ形成を目的とした主な自主事業は①お困りごとサポート事業、②地域交流スペース・居場所運営事業、③フリマボックス事業（手作り品などの展示・受託販売）、④プラザ広場における「健康太極拳」「健康ストレッチ」の開催事業など。お困りごとサポート事業の利用料金は、初期料金が15分300円、以降30分500円、45分750円、60分1000円。60分以降は15分単位250円となっている。店舗および事務所の営業時間は9:30～17:00（年末年始を除く）。

●連絡先 / 〒651-2272 兵庫県神戸市西区狩場台3-9-15
TEL 080-4646-2552 <http://comukariba.sakura.ne.jp/>

CONTENTS

2 **新しいふれあい社会 実現への道**

多様なパネリストを考えてみよう

清水 肇子

4 **「いきがい・助け合いサミット in 大阪」**

ちょっと地域のこと、自分のこれからのこと、一緒に考えてみませんか？

8 **寄付・遺贈のこころ** Vol.4 故 石河 刃男さん 石河 豊さん

14 **広げよう つなげよう 地域助け合い** 活動の現場から

オールドニュータウンの課題に みんなのNPOで取り組む

NPO法人コミュニティかりば（兵庫県）

20 **「聴く」を問い直す** 裏を見せ、表を見せて…

「聴く」を問い直す 東北の雪国に暮らす友を訪ねて

尾崎 雄

新しいふれあい社会づくりに向けて

● 新地域支援事業・

助け合いの地域づくり

24 北から南から 各地の動き

● その他の財団の活動 など

34 ご支援ありがとうございます。

さわやかパートナー（賛助会員）・ご寄付者の皆様のご紹介

36 NEWS & にゅーす

37 さわやか活動日記（抄）

① 居場所ガイドブックのご紹介 / ② さわやか書棚

③ さわやか豆知識 / ④ 訪問助け合い活動テキストのご紹介

⑤ 2019年度実施事業・プロジェクト一覧 / ⑥ みんなの広場/投稿募集

⑦ さわやかパートナー・「さあ、言おう」のご案内/表紙絵から

